



園長だより

NO 9 4

暑い夏の延長、暦の上では秋真っ只中であるが残暑が秋を感じさせてくれません。

朝夕の寒暖差が体温調整を鈍らせます。健康には留意して日々、過ごしていきましょう。

生活の見直し

今年の夏は記録的な暑さ、熱中症警戒アラートなる指数が2020年（関東地方）に運用されてから数年が経ちます。その後、全国で運用されるようになり、2024年には熱中症特別警戒アラートなるものが運用されると言われています。これから先、暑さが一段と厳しくなることは予測され夏の保育園生活も知恵を絞るより良い環境をつくるのが優先されます。

外に出ることが制約され室内中心で過ごすことが当たり前になりました。

保育業界ではピンチの状況に置かれました。ホールがある施設や保育室がゆとりをもって作られている施設は室内中心に切り替えられるが規模が小さい園では子ども達の行き場を失う期間の到来である。都心の小規模園では過ごしやすい天候では必ず散歩に出て近隣の公園で遊ぶというルーティーンを欠かさないところがある。

私も都内の保育園で働いていた時は、ほぼ毎日散歩に出て公園で遊んでいた。夏の時期は屋上に設置したプールに毎日入り遊んでいた。子ども達にとって、夏は毎日プールに入れるこの上ない季節であった。



異常気象が拍車をかけ戸外に出られないことが続く昨今は生活の見直し、施設の有効な活用を考えなくてはなりません。

当然、子ども達が毎日、遊んでいる遊具（玩具）なども従前よりも子ども達の育ちに合ったものを揃えるなり（作るなり）しなくてはなりません。室内で過ごす時間が長ければ、それだけ、玩具で遊ぶ時間が長くなる、ものめずらしさだけで使っている玩具ではすぐに飽きがくるものです。子どもは正直です。年齢の育ちに合うものを用意していないと遊びは続かない、遊びこめない、結果、遊びに夢中になれない（没頭できない）という姿が見られ、保育室がわさわさと騒がしくなり落ち着きがなくなる。結果、子ども同士のトラブルも起きてしまうことにつながってしまう。（負のループに陥ってしまう。）

普段から子どもの遊びを丁寧に観察し、子どもの育ち、興味、関心の向きを感じ取っていれば、負のループは起こらず快適な生活が送れるはずである。

この気象状況下で保育環境の見直し、生活の在り方を考える機会を再びいただいた、保育環境について丁寧に向き合う必要があります。

遊具（玩具）についても子どもの成長に合わせ必要なものを相応に揃える、発達に合わせ空間の素材や道具を適正に用意するなど細やかな目でみて、考え、環境を作ることが求められています。新型コロナウイルス感染症の対応、



そして異常気象、今後予測される様々な事象に柔軟に対応していきたいと考えています。

行事について考える。

新型コロナウイルス感染症の対応にて、ここ数年、園行事の中止や規模縮小などを余儀なくされた。全国の乳幼児の施設の職員がこの期間、知恵を絞り、子ども達に大きな影響が出ないように保育内容（活動）を工夫し取り組んでいた。

その中で多くの園の職員が従前行われていた行事に疑問を抱いていた。「行事って誰のためにやっているのか」「振り返れば、成果主義に偏り、毎日大人も子どもも楽しくなかった」「行事のためにある毎日であった」など行事に追われていた頃には感じなかった思いや感情が芽生えたという。

他園、経験3年ほどの幼児クラスを受け持つ保育士と話をする機会があった。

今までは子どもを中心に据えた保育を逸脱して大人が考えた内容をひたすら教え込むような日々がコロナ禍で立ち止まり、子どもにしっかりと向き合い大切なものを思い起こさせてくれたという。

ただ、新型コロナウイルス感染症が2類から5類相当の扱いに変わり、コロナ禍前に戻ったという。行事に熱を込め、華やかに行っていた園であり、いざ解禁とばかり成果発表の行事に切り替えている。

残暑の厳しさが和らいだ日をねらい、戸外で



2023.9.29

運動会の練習、練習に明けくれている。

職員も園の方針には従うしかないという、コロナ禍でひとり、ひとりがよく見えて保育にあたったことが一変し集団の出来栄えばかりを気にするように変化した。

保育の楽しさを感じられていただけにこれから先が不安だと言っていた。

園それぞれの行事の考えは異なるもの、5類相当の扱いになり、行事の取り上げ方も一考の余地がある。

大きく分類すると

- ① 従前の内容、規模に戻す。
- ② コロナ禍で行った内容規模を継続する
- ③ 新たに子どもを中心に据えた取り組みを考えていく※コロナ禍の経験をもとに

おおぞら保育園はここ10年で行事の在り方が変化しています。子どもを中心に据え、過度な教え込みはせず、日々の生活の中で無理なく積み上げてきたものをできるだけ自然に見ていただける機会を作りたいと願っています。

大きな行事で異なる年齢が集い行うものは今後、再考する必要があります。コロナ禍でそれぞれの年齢、育ち 身体的 情緒的なものを考慮すると子ども達が輝けるのは適正な単位での取り組みだと考えています。

現時点の考えは②と③を絡ませながらもう一度保育内容（行事）の在り方を考えお示しできればと思っております。

（おおぞら保育園 園長 廣部信隆）

